

## 本館 1 階 (飛行機の仕組み)

### ① 747セクション □

本物のジャンボジェットの機首部分を実物展示しています。機体や前脚タイヤに近づける機会はなかなか無いと思います。また、セクション□とはボーイング社が機首部分に付けた製造区画番号です。(操縦室などの内部に入るには有料整理券が必要です。)



### ② ボーイング747大型模型

ボーイング747-400型機の□の大きさで、世界最大級の動く模型です。精巧に作られており、操縦舵や車輪などが実際に動きます。後方の操縦室から操縦することもでき(有料整理券必要)、油圧で機体が大きく傾く様子を見ることができます。



### ③ ジェットエンジンと主翼断面

ボーイング747に使われている、□というエンジンです。この展示は映像によってエンジンの仕組みが分かるようになっています。翼の断面から翼型のカチを見ることができます。また、燃料タンクは通常では翼の中にあります。



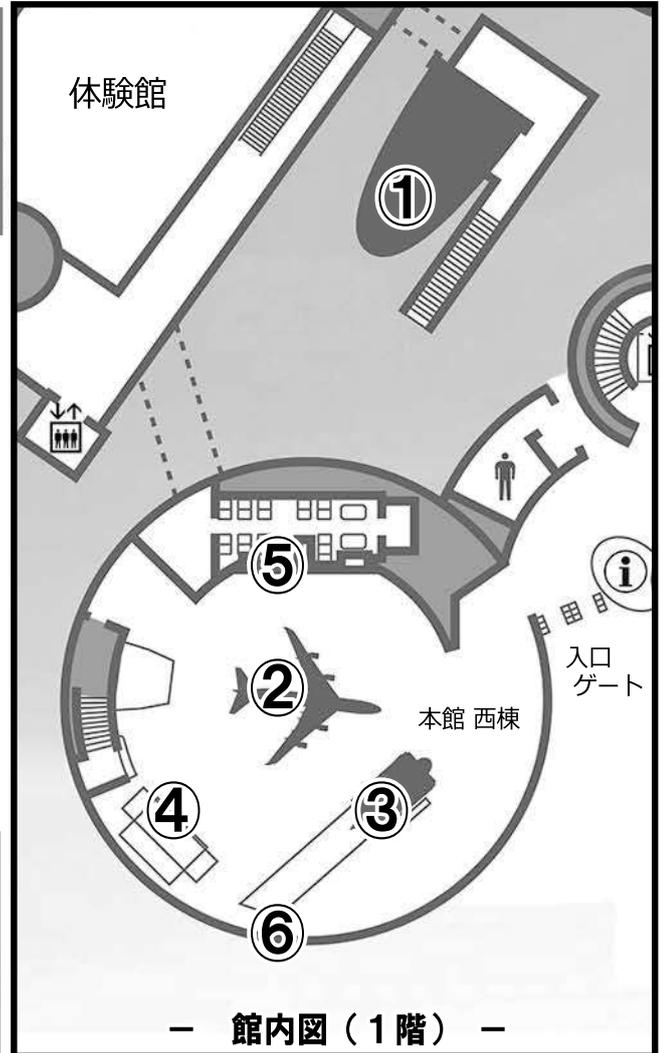
### ④ ボーイング747胴体断面

胴体を輪切りにしたものです。客室床下の空間には□が搭載されています。胴体構造は非常に薄くできています。補強材で耐荷重を確保しつつ軽量化されています。材料にはアルミ合金であるジュラルミンが広く使用されています。



### ⑤ 客室モックアップ

最前列は□、中列はビジネスクラス、後列はエコノミークラスのシートです。座り比べてみると広さなどの違いがよく分かります。コックピット部分は映画「ハッピーフライト」の撮影で使用されていたセットです。



### ⑥ パノラマビジョン

#### シアター映像

飛行機の出発から到着までの様子を270度のパノラマビジョンと大型模型プロジェクションマッピングで映し出しています。飛行機に乗るワクワク感を演出していますので、航空に興味を抱きながら博物館を回って頂けたら嬉しいです。

映像投影時間はスタッフまでご確認ください。



## 本館2階 西棟 (歴史)

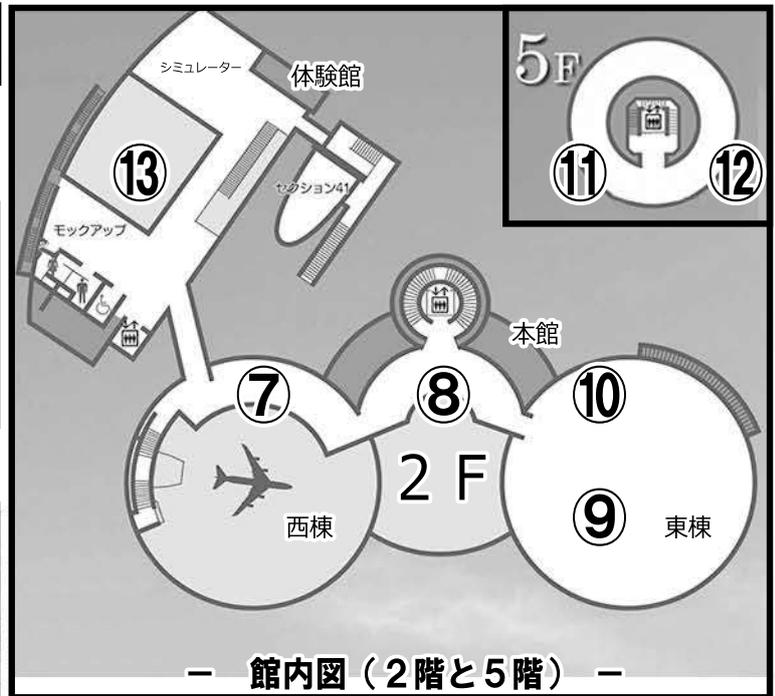
### ⑦ 立体航空史年表

のフライヤーから現代航空機までの歴史が模型で分かるようになっています。黎明期、発展期、成熟期の三区画があり、航空機の形の変遷を見ることができます。



### ⑧ 名機10機

日本航空史を代表する故・木村秀政氏が選択した日本を代表する10機を精巧模型で展示しています。



## 本館2階 東棟 (空港と職業)

### ⑨ 成田国際空港ジオラマ

成田国際空港の800分の1の模型です。実物は東京ドーム約245個分あり、広い敷地を有しています。AとBの2つの滑走路を持っており、1日の離着陸回数は600回以上ある忙しい空港です。



### ⑩ 空港で働く人たち

成田国際空港では約1000人の人たちが働いています。職種も様々で、パイロット、整備士などから入国審査官や保安検査員、売店員など多岐に渡ります。その他にどのような仕事があるか調べてみましょう。



## 5階展望展示室 (空港と航空管制)

### ⑪ 展望室

目の前に見える滑走路が、長さ4000m、幅60mのA滑走路です。離着陸の方向は風向きで決まり、運が良ければ大迫力で着陸機を見ることができます。



### ⑫ 管制卓

飛行機が安全に運航できるようにで誘導するための管制卓で、航空保安大学の訓練用に使われていたものです。他にも地上管制用などがあります。



## 体験館 (イベント)

### ⑬ 体験館ホール

年間を通して、様々なイベントが開催される多目的用途スペース。最新のイベント情報は当館のホームページに掲載されています。



## 屋外展示場 (実機) ※ 外にあります。

### ⑭ YS-11試作1号機

戦後初の国産旅客機であるYS-11の試作第1号機です。1962年に初飛行に成功した実物です。内部では試験飛行時の重心移動用の水タンクを再現。

